

パチンコ依存問題、2年間の電話相談データ分析

電話相談機関「リカバリーサポート・ネットワーク」(RSN)が報告書

「リカバリーサポート・ネットワーク」(医学博士・西村直之代表、略称RSN)は、このほど「06年度・07年度リカバリーサポート・ネットワークぱちんこ依存問題電話相談事業報告書」をまとめた。

RSNは、パチンコへの過度ののめり込み(パチンコ依存)問題が指摘されるなか、全日遊連の支援を受け、無料電話相談による早期介入窓口を開設している。

相談件数は06年度が989件、07年度が846件、計1835件。月平均76.5件の相談が寄せられた。07年度の減少は、マスメディアで取り上げられることが減少したことが要因とみられるとしている。

06～07年度トータルで相談件数が最も多かったのは、沖縄県で、以下、大阪、東京、神奈川、福岡、北海道の順。1件も相談がなかったのは、06年度が福井県、山梨県、07年度は鳥取県。

対象者(電話をかけてきた本人ではなく、問題を持っている相談の対象)は、1835件中、男性69%、女性

21%で、これは遊技参加者の男女比と近似している。相談者と対象者とも年代別では、30歳代が最も多く、

「依存問題が比較的若い世代を中心に広がっていることが推測できる」としている。

のめり込んで困っている本人にパチンコ開始年齢を聞いたところ、男性の多くは10代、20代に開始しており、女性は20代が多い。「早期に開始した男性に問題が生じやすい可能性が考えられる」としている。また、10年以上問題化しているケースは、男性で30%、女性では19%にのぼり、一旦、依存問題が生じると、長期化する危険性が窺われる

のめり込んでいる機種は、06～07年度合計で、パチンコ62%、スロット25%。両方13%。パチンコでは06年度の67%から07年度は55%に減少している。

相談者の関連問題では、20%以上が何らかの関連問題を抱えていることが分かり、最も多かったのは、狭義の精神障害(不安障害、軽うつ状態、自立神経失調症など)で、このほかアルコール問題、DV加害等もあった。

借金の有無について聞いたところ、55%が有りだと答えている。

相談内容のトップは、パチンコ・パチスロを「やめる方法、またはやめさせる方法」だった。多くの相談者が借金をしながら、その返済方法よりも、やめる方法を知りたいという結果が出ている。「やめられないので、地元で相談できる場所を教えてください。のめり込んでいる家族の対

応に困り果てた、という方も多い」としている。

相談経路をみると、新聞やテレビなどのマスメディアの情報は、家族・友人には有効な伝達手段であるものの、依存問題の当事者には直接、届きにくく、ホール内のポスターが当事者への情報伝達に有用であることが分かった。

相談電話の21%は、話を聞いただけで終了し、71%は他の相談機関を紹介している。「可能な限り、相談者のニーズに合った利用可能な社会資源を探そう努力しているが、ニーズに合う相談機関が相談者の居住地域にはなかったりと、十分な対応ができないまま終了してしまう場合もあり、相談対応のレベル向上や、全国的な問題啓発が必要」としている。転帰・紹介先は、県精神保健福祉センターが最も多く、次いで、ギャンブラーズ・アノニマス、ギャマノン、ワンデーポート、医療機関(主治医戻し含む)、市精神保健福祉センター、その他の順となっている。

RSNでは、今回のデータ報告書が、パチンコ依存問題に苦しむ方々の実態を明らかにし、これを基に今後の援助の方向性を決定していく役割を担うことと確信しているとしている。今回のような統計データは、日本で初めてなだけに、今後、依存問題への取り組みへの貴重なデータになるとみられる。

パチンコは、適度に楽しむ遊びです。

あなたの遊技は、度を越えていませんか?

パチンコがやめられない、どこにも相談しているのかわからない、ひとりで悩まずに、お電話ください。

リカバリーサポート・ネットワーク

050-3541-6420 (全国フリーダイヤル)

http://www.geocities.jp/rsnokinawa/

RSNのポスター